

## 小・中学校の不登校の現状を理解する

平成22年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、不登校として報告があった小・中学校の児童生徒（札幌市を除く）の状況を分析した結果を紹介します。

### 不登校児童生徒の約半数は2年以上の継続 しかし、復帰は可能！

グラフ1に示すとおり、平成22年度に不登校であった児童生徒のうち、小学校の44.8%、中学校の53.8%の児童生徒は、平成21年度より前に不登校になっています。

しかし、表1に示すとおり、平成21年度より以前に不登校になり長期化していた児童生徒であっても、3割程度の児童生徒は平成22年度に登校できるようになっていることが明らかになりました。

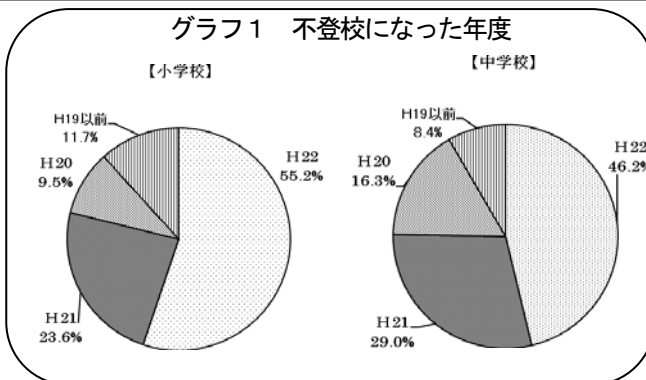


表1 不登校になった年度と平成22年度における解消率 (%)

	H22	H21	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14
小学校	45.7	32.4	42.9	34.6	25.0	20.0			
中学校	40.6	34.2	30.6	18.6	33.3	35.7	31.6	28.6	33.3

表1の見方例 小学校の平成21年度の32.4%は、平成21年度に不登校になり平成22年度まで不登校が継続していた児童のうち、平成22年度に登校できるようになった児童の割合を示しています。

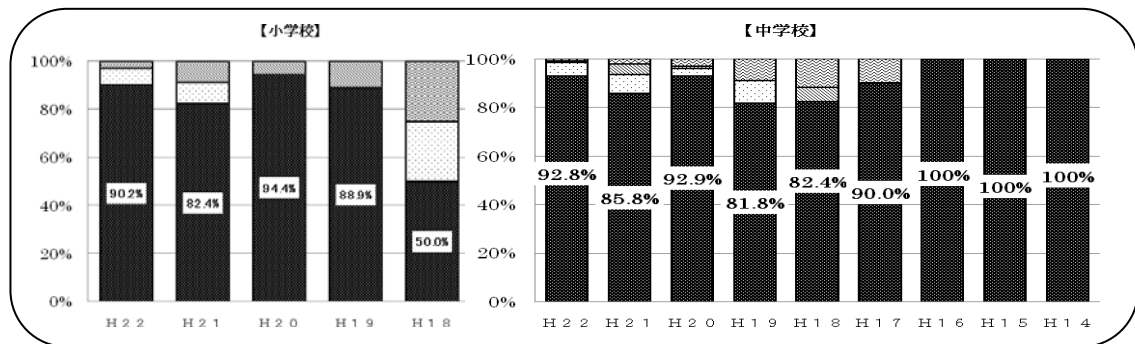
### まだ登校できていない児童生徒 の中にも復帰できる可能性のある児童生徒がいる！

グラフ2は、各年度に不登校になった児童生徒のうち、平成22年度において登校できるようになった児童生徒の欠席の状況を示したものです。登校できるようになった児童生徒のうち、ほとんどは連続した欠席が1ヶ月未満であり、連続した欠席の期間が短いほど登校できるようになる可能性が高まります。

また、グラフ3に示したとおり、登校するに至っていない児童生徒の中にも、連続した欠席が1ヶ月未満の生徒が相当数おり、たとえ不登校の期間が2年以上継続していても、適切な支援によって登校できるようになる可能性があると考えられます。

グラフ2

登校できるようになった児童生徒の連続欠席の状況



グラフ3

登校するに至っていない児童生徒の連続欠席の状況

